

秋晴れの下、雷別自然再生学習会を開催！

10月11日（土）、朝方まで降っていた雨もすっかりやんだ秋晴れの下、標茶町雷別地区国有林で雷別自然再生学習会を実施し、参加者16名が広葉樹の植樹、タネ採取・タネ播き、遊歩道の樹名板整備に汗を流しました。

初めに、自然再生事業の概要説明を行い、この事業は多くの市民の参加を得ながら進めていることを話し、本日の学習会をきっかけに様々な活動への参加を呼びかけました。植樹作業では、9月13日に雷別ドングリ倶楽部会員が地拵えした10m四方の植栽地にミズナラなどの広葉樹96本を植栽、ミズナラ種子50個を直播きしました。タネ採取では、風散布、水散布、重力散布など樹木に応じてタネの落ち方・広がり方に特徴があることを覚えてもらってから、シラカンバとミズナラの種子を採取しました。タネ播きでは、自然の中での広葉樹芽生えの話をした後で、ミズナラ、ヤチダモ、シラカンバ、キハダのタネを発泡スチロールの苗床に播きました。午後からは、森林散策をしながら樹木の名前の由来などの話をし、参加者全員で樹名板設置を行いました。

参加者からは、「こらからも是非参加したい。」、「苗木の育成のお手伝いをしたい。」など嬉しい声をかけていただきました。これからも雷別地区自然再生事業のPRを一層図っていきたいと考えています。



広葉樹を植樹



森林散策しながら樹名板を設置